

面積表	既定式1. 備出過給バツト子切の2階層面積結果に小根点算換算し、第4次計画の増設面積を加算	試験場	氏名	由がね監督
増設面積	(既定式) 42 x 22 = 924	924.0 m ²		
最上階 (既定)	35 x 22 = 770	770.0 m ²		
基準階 (既定)	42 x 22 = 924	924.0 m ²		
1階 (既定)	42 x 22 = 924	924.0 m ²		
貨物倉庫A及び貨物倉庫Bの合計床面積 (既定)	70 m ² x 5層 = 350 m ²	350.0 m ²		

要求図面では表せない建築物の計画上の要点等について、次の(1)~(7)を具体的に記述又は図示する。

(1) 基準階(貸事務室A、貸事務室B及び共用部)について、次の①、②の観点から配慮したこと

①収益性(レントラブル比に関する記述は除く。)や可変性
 貸事務室A、貸事務室B共に無柱空間とすることで、広く空間と利用できるので収益性が高く、自由に間仕きれるので可変性も高い室とした。

②快適性やテナント及び利用者の多様性
 貸事務室A、貸事務室B共に、南側に窓を多く設けて採光をとり、利用者の快適性に配慮した。
*・利用者の多様性についての記載なし。
 ・共用部についての記載なし。*

(2) 最上階(シェアオフィス、共用部及び屋上庭園)について、収益性や快適性、多様な働き方に対応可能な空間づくりの観点から配慮したこと

シェアオフィスのラウンジに屋上庭園と隣接して設け、シェアオフィスの利用者が休憩したり、利用者同士でのコミュニケーションをとったりする場所とした。
*・ここからの記載なし
 ・採光の条件は他の事を記載した方がいい*

(3) 採用した構造種別と、その構造種別を採用した理由(無柱空間とするに当たり工夫したこと及び耐震性や経済性等について配慮したことも含む)

採用した構造種別 (○で囲む)	木造 ・ 鉄骨造 ・ RC造 ・ SRC造 ・ その他()
採用した理由(工夫したこと等)：	耐震性に配慮してRC造で建設することとし、無柱空間を構成するためにPC梁を使用した上で、梁せいを他材も高くし、PC梁を受けた柱は800×1000mmの断面寸法とした。

(4) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した空調方式と、次の①、②の観点から配慮したこと

採用した空調方式	天井カセット型 <i>空冷式+ポンプ+配管方式</i>
①設備スペース(室内機、室外機、配管スペース等)の確保	室外機を置くための設備スペースを屋上の北側に配置し、各階の奇数に適切にPSを設けた。 <i>・断面に設備スペースの記載なし ・空調用の記載なし(図面に)</i>
②貸事務室A及び貸事務室Bの快適性	天井カセット型を空調に採用することで、貸事務室A及び貸事務室Bの天井高を2.8m確保し、利用者の快適性に配慮した。 <i>・条件</i>

(5) 貸事務室A及び貸事務室Bに採用した排煙方式と、その排煙方式を採用した理由及び配慮したこと

排煙方式 (○で囲む)	自然排煙 ・ 機械排煙 ・ その他()
採用した理由及び配慮したこと：	経済性に配慮して、排煙方式は自然排煙とした。 <i>・少ない印象</i>

(6) 省エネルギー及び二酸化炭素排出量削減について、次の①~③の観点から配慮したこと

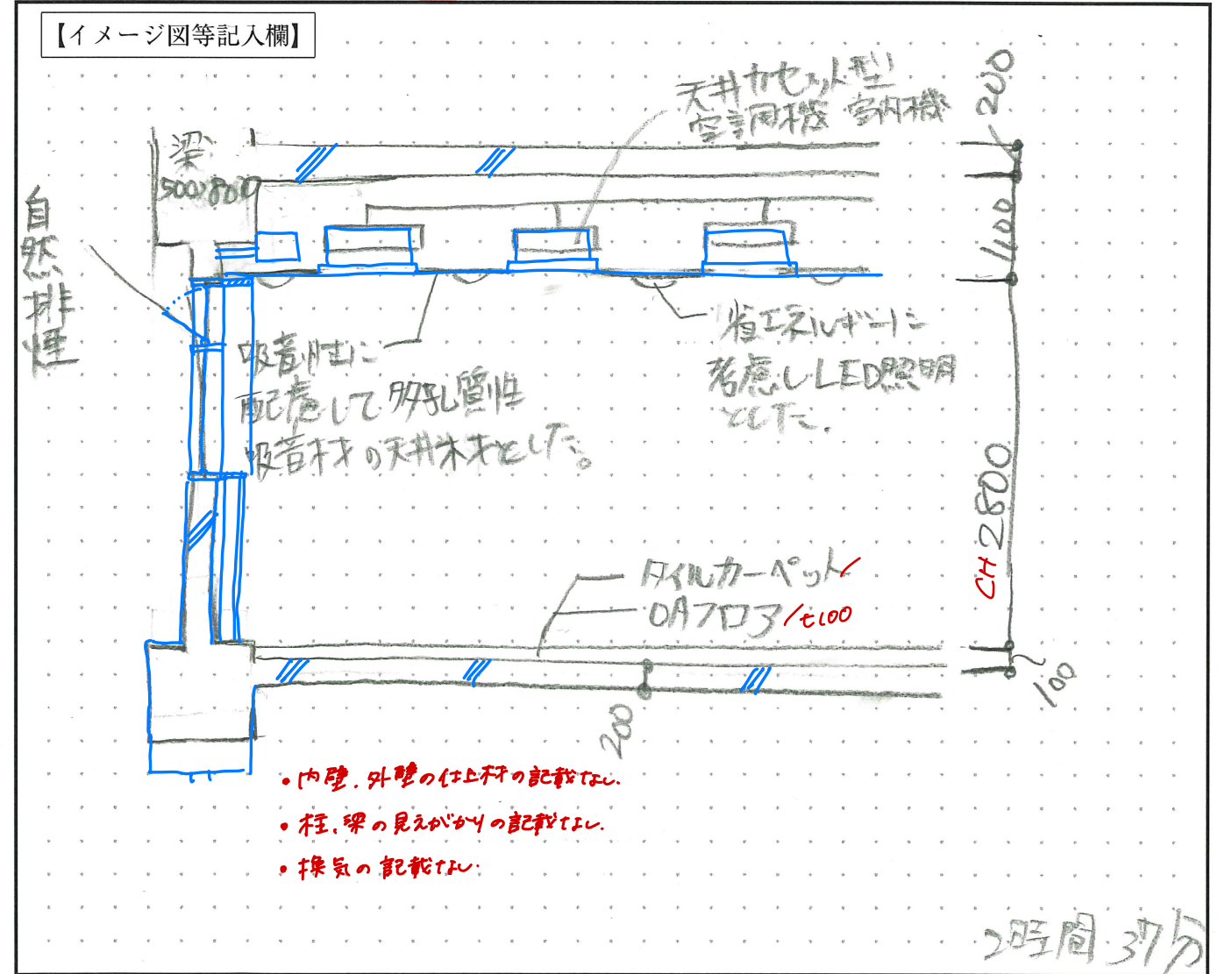
①パッシブ技術
 貸事務室Aの西側に垂直ルーバーを設け、西日に伴う室温の上昇をおさえる計画とした。
・図面に記載なし

②アクティブ技術
 屋上に太陽光パネルを設置することで、建物利用時の一部の電気エネルギーを発電によりまかなうこととした。
*・屋上設備スペース等の記載なし
 ・太陽電*

③その他(創エネルギー技術、材料の選定等)
 屋上庭園に設置するベンチに間伐材を使用することで、木材の廃棄をへらし、二酸化炭素排出量を削減した。
・内装の仕上材のことは必ず記載した方がいい

(7) 貸事務室A又は貸事務室Bのペリメーターゾーンの断面詳細が分かる図やイラスト等(縮尺1/50程度、フリーハンドでもよい。)及び次の①~③のポイント(全て【イメージ図等記入欄】に記入する。なお、(1)~(6)に記述した内容やその他工夫した点を合わせて記入してもよい。)

- ① 建築計画上のポイント(天井高、床高、天井ふところ等の寸法及び内装仕上げ、外装仕上げ等を含む。)
- ② 構造計画上のポイント(柱、梁、床等の主要な構造部材(見えがかりも含む。))の断面寸法を含む。 *20時間 20分*
- ③ 設備計画上のポイント(空調、換気、排煙、照明等を含む。)



試験場	受験番号	氏名
	□□ - □□□□□□	あかね 監督